

藤山正二郎 「激動するホータン：玉石ラッシュ、マザール、ピリ・ホン」

出張日程：2005年8月8日～8月21日

訪問地：新疆ウイグル自治区ホータン

報告

今回の調査は、上海を襲った台風の影響で半日、上海に足止めを余儀なくされ、ホータンへの飛行便は深夜しかなく、移動は疲れることばかりであった。ホータン市は、ここ2、3年、急激な再開発が続いている。旧市街のバザールがビルに建て変わるため、雑然としたなつかしいバザールの姿はなくなっていた。また、調査中に市内で世界玉石祭が開かれ、中国各地から旅行・観光関係者が集まり、混雑に輪をかけていた。

【玉石ラッシュ】ホータンの玉は昔から有名である。中国の経済成長の影響であろうか、突然、この玉に投機的な金が集申し始めたのである。その影響で、このような玉石祭が開かれ、学術的な玉石のシンポジウムも開催されていた。当然、ホータンの中心街では道端に玉石売買の人が並び、手のひらに軽く乗るような玉が1万元という高騰した価格で売買されていた。マリカワト遺跡の途中のユルンカシュ河までいくと、高台から見る光景は驚くものであった。前に来たときはのどかな広い河原の畑であったのが、すべてブルドーザーなどで掘り返され、ある人は子どもも動員して、スコップで玉を捜している。そばの道端には小さな店が並び、玉の店、食堂など小さなバザールが出現している（写真1）。まさに「ゴールド・ラッシュ」の光景である。今は夏で水量が多いから、人も少ない、冬には何万人も群がるという。まじめに働くより、玉で一発当てたほうがいいのかであろう。



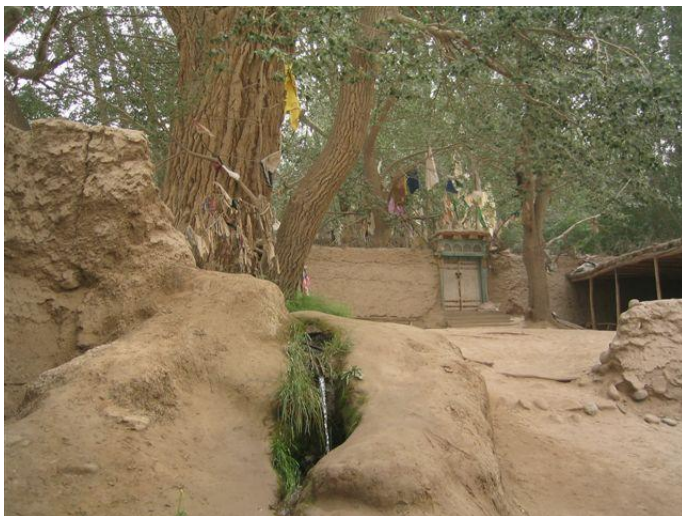
【マザール】ランドクルーザーで、ロプ県の山深い谷にあるアチック村に向かう。ホータン市内から3時間かかる。ウジュマ・マザールに行く。ウジュマは桑の意味である。イス

ラムの将軍グズリヤが、仏教軍に負けて、逃げてきて、桑の木に頼んで、隠してくれと、木の中に入った。しかし、服の部分が見えていたので、のこぎりで木を切って、イスラムの将軍も死んでしまったという伝説がある。そのグズリヤと兄弟、息子がまつられてあるマザールが小高い丘にある。風光明媚なところで、多くの人が今でもお参りに来る



(写真2)

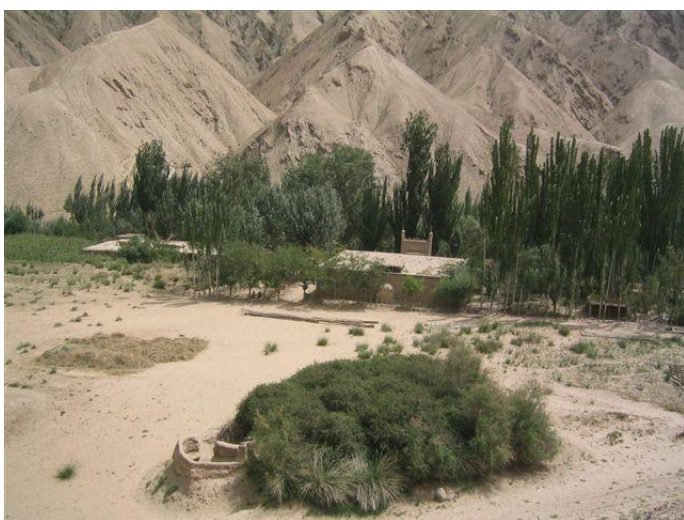
(写真3はチラ県のイマーム・マフディのマザール、流れる水は薬となる)。



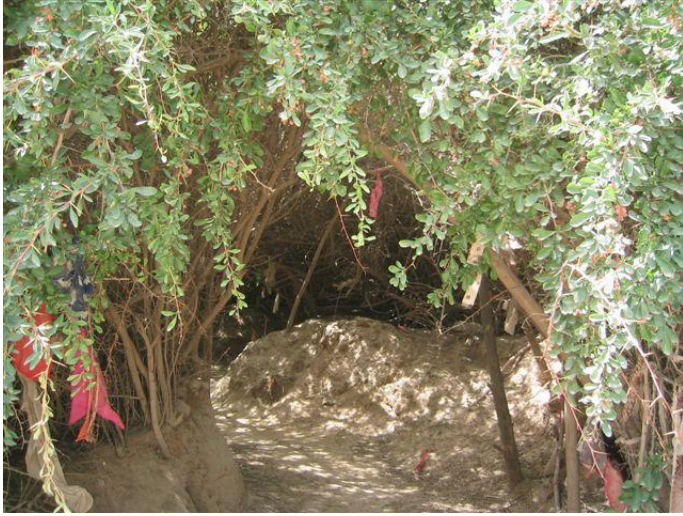
5月21日には、ロプ県・ユルンカシュ鎮からアチクに向かうバスが、ユルンカシュ河畔で山からの土石流に巻き込まれて、14人が死亡したという事故が起きた。この時期は多くの人がこのようにバスを仕立てて、巡礼のようにカシュガルなど遠くの地から何箇所かめぐりに来る。メッカ巡礼はそう簡単には行けないが、平安、病気治し、豊作などを願うため、マザール巡礼者の数は年々増えている(写真4：ブザク郷のイマーム・ムサのマザールで祈る巡礼者)。



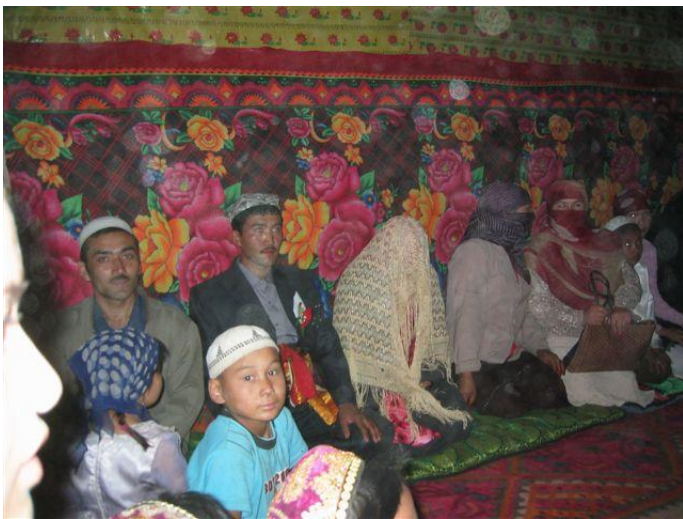
村に行ったこの日も、この水害からの復旧は遅れていて、道路が寸断され、4－5箇所  
で橋が流され、仮の木造橋がかけられていた。川中を迂回し、壊れそうな仮橋はそろりと  
車だけを通した。農閑期の7月など2000人－3000人が訪れる。今はアチクに桑は  
ない。モスクの裏に、こんもりと木が茂ったところがぼつんとある。病気直しなどを願い、  
その願いを込めた布が木に結んで、座って祈る社である（写真5と6）。



モスクのそばには、樹齢1000年のポプラの大樹があり、この村は7戸しかないけど、  
そのような巡礼者のためのバザールの場所が設置されてある。



【ピリ・ホン】カラカシュ県にバクシを訪ねる。その途中に結婚式に出くわした。村落部の結婚式はまだ見たことがないので、飛び入りで参加する。婿さんが花嫁を連れてきたらしい。村中総出といった感じで、ロバ車や、トラックで集まってくる。花嫁がきたら、道に紐を張って儀礼的な邪魔をしていた。花嫁花婿の服装も伝統的なスタイルである（写真7）。



さて、バクシであるが、会えたのはダパンジで、ダップをたたく人である（写真8）。



いつもは農業をしていて、月に1, 2回、マシュラップもしくは病気直しの儀礼を行う。そのような霊能者をピリ・ホン、バクシもしくはダハンという。カラカシュには何人かいる。大人数で病気治しの儀礼をすることは禁止されている。その患者は、不妊など婦人病、精神的な病、わからない言葉を言うひと、てんかんなどである。この近くにも近代医学の病院はあるが、そのようなところに行っても直らない人が依頼するのである（写真9：カラカシュの画家が描く伝統的な治療儀礼）。



マシュラップとピリは重なるところがある。ピリ・マシュラップとして分類されることもある。マシュラップも古典的なジュワントイのようなマシュラップはされなくなったが、いまでも、20種類ほどおこなわれ、学校の同窓会、同じ職場の退職者などの新しいマシュラップも誕生している。マシュラップはウイグル自治区の各地で行われているが、ホータンの特徴としては、使う楽器の種類が多い。だが、豎琴のような楽器で、誰も作れない、誰も弾けない楽器があり、マシュラップが再興している時期で新たな悩みもある。

【教育競争】教育の競争が激しくなり、「内高班」といってウイグルのような少数民族地域から、優秀な中学生を選抜し、北京、上海にある有名大学の付属高校などに入学させ、漢語で教育し、そのままその地域の大学に進学させる制度がある。この「内高班」に何人選ばれたかで、その学校のランクが決まる。また、就職試験のため、進学試験のための予備校がホータン市内にできている（写真10）。

